

パリ2024オリンピック トライアスロン 小田倉 真 選手 (小平市長報告訪問)

9月9日(月)に、市長室において、7月31日に開催された、トライアスロン男子個人に出場した、小田倉 真 選手から、市長、教育長、スポーツ協会会長に対し、オリンピック出場の経過報告をもらいました。

日程は1日遅れましたが、会場は、パリのセヌ川のスイムから予定通りの開催となりました。

日本中の人たちに、また、小平の少年少女たちに大きな夢を与えてくれた小田倉選手に感謝です。

これからの、小田倉選手のスポーツ活動にも期待したいと思います。



ユニフォームやシューズなど、
プレゼントをたくさん頂きました



トライアスロンの豆知識

(パリオリンピック前)



トライアスロンは、伝統的に行われてきた3つのスポーツ、スイム（水泳）、バイク（自転車）、ランをひとりで連続して行う競技。その歴史はまだ浅く、1970年代にアメリカ合衆国カリフォルニア州のサンディエゴ・トラッククラブが、トラックでのランニングの代わりにトレーニングとして行い始めたことをきっかけに誕生した。1974年、同クラブによって初めてのトライアスロンが開催された。当時は、ラン8.5km、バイク8km、スイム540mが順に行われるものだった（[ワールドトライアスロン・ウェブサイト](#)より）。トライアスロンは、1980年代になると一気に人気が高まった。1989年には国際トライアスロン連合（ITU、現ワールドトライアスロン）がフランス（アヴィニョン）で設立され、同年、同じ場所で第1回世界トライアスロン選手権が開催された。

オリンピックにおける歴史

トライアスロンワールドカップシリーズ（現在のワールドトライアスロンシリーズ）は1991年に始まった。世界8カ国で11レースが行われた。このころからトライアスロンは身近なスポーツとして認識されるようになり、2000年のシドニーオリンピックから正式競技として実施されるようになった。トライアスロンは、これまでに6大会で実施され、合計39個のメダルが授与されたが、これらは16の国に分散している（日本はまだ1度も獲得していない）。メダルの獲得数では、イギリスが8個（内、金メダル3個）でトップに位置する（東京2020終了時）。



ルールの概要

オリンピックでのトライアスロンは、男女ともに、スイム1500m、バイク40km、ラン10kmの3種目を連続して行い、ラン終了時の総合順位が競い合われる。予選はなく、1度のレースで最初にフィニッシュラインを越えた選手が勝者となる。高い有酸素能力、スタミナ、スピードや筋持久力が必要なだけでなく、3種目をバランスよくこなす多才さやスキルを要する。

東京2020オリンピックでは、混合リレー種目が初めて行われた。男女各2名がひとつのチームになり、さらに短い距離（スイム300m、バイク6.8km、ラン2km）のトライアスロンを女子・男子・女子・男子の順にそれぞれ交代で行って総合順位を競い合った。トライアスロンの個人種目（男女）、混合リレー種目はパリ2024でも実施される。

